

新しい歩みの始まり

ローマ人への手紙 6章 1-11節

はじめに

今日は、キリスト教の三大祭の一つである「イースター」です。「イースター」は、イエス様の復活を記念する日です。

イエス様は、歴史的には約 2,000 年前に存在していたユダヤ人です。そのイエス様がエルサレムで十字架に付けられて死なれたという出来事は、クリスチャンであっても、クリスチャンではなくても、全世界の人々が認める事実です。

しかし次の二つのことを認めるのは、イエス様を信じるクリスチャンだけです。一つは、イエス様の十字架の死は、私たちのための「身代わりの死」であったということ。もう一つは、イエス様は十字架の死から三日目に、墓の中から「復活された」ということ、です。

1. イエス・キリストの十字架の意味

まず一つ目のイエス様の死は、私たちのための「身代わりの死」であったということですが、聖書によれば、イエス様は、私たち人間の罪を背負って十字架に架かられたのです。そして十字架の上で、私たちに代わって神の怒りと呪いを受けられ、私たちに罪の赦しと救いの道を開かれたのです。

歴史的には、イエス様は弱い者に愛を示し、素晴らしい教えを説いた「聖人」と考えられていますが、聖書によれば、イエス様は私たちのために、自ら十字架に架かられた「救い主」なのです。

2. イエス・キリストの復活は本当か！？

次に、イエス様を信じるクリスチャンだけが認める二つ目のこと、イエス様は十字架の死から三日目に、墓の中から「復活された」ということですが、聖書によれば確かに、イエス様は十字架の死から三日目に、墓の中から復活され、40日にわたって弟子たちや五百人以上の人たちに現れ、その後、天に昇られたのです。

しかしこれまでクリスチャンではない多くの人たちが、イエス様の復活は、弟子たちが作り上げた「作り話」に過ぎないと考えてきました。特に、弟子たちがイエス様の遺体を盗んで、それを隠し、復活したと嘘を言っていると考えたのです。

確かに当時も、イエス様の反対者たちは、弟子たちがイエス様の遺体を盗んで、それを隠し、「イエス様は復活した」と嘘を言い始めるのではないかと心配しました。そのため反対者たちは、イエス様の墓の前に兵士たちを置いて、厳重に警備をしていたのです。ですから弟子たちが死体を盗むことなど不可能だったのです。

さらに決定的に、弟子たちが嘘を言っているのではないということの証拠は、弟子たちの変えられた姿です。聖書を見る限り、イエス様が十字架で死なれる前と後の弟子たちの姿は、まるで別人のようです。イエス様が十字架で死なれる前の弟子たちは、弱々しく、失敗ばかりで、イエス様を捨てて逃げてしまうような者たちでした。しかしイエス様が死なれた後の弟子たち、特にイエス様が死なれてから約 50 日後の弟子たちは、命を懸けて大胆にイエス様を宣べ伝えるようになったのです。

しかも彼らは「イエス様は復活した」ということを、命を懸けて宣べ伝え始めたのです。そして彼らは人生の最後まで、「イエス様の復活」を宣べ伝え続け、やがて殉教の死を遂げていくのです。

「イエス様の復活」というのは、弟子たちの人生を大きく変えました。そして弟子たちにとって「イエス様の復活」は、いのちを懸けて宣べ伝えるべきものであったのです。

人間は、真実のためになら命を懸けることはできるかもしれませんが、嘘と知りながら、その嘘のために人生の最後まで命を懸けることはできないでしょう。その意味でも、弟子たちがイエス様の遺体を盗んで、それを隠し、復活したと嘘を言っているようには思えないのです。

さらに、もし「イエス様の復活」が単なる弟子たちの嘘であったなら、はたして全世界にこんなにもキリスト教が広まったでしょうか。現在、キリスト教人口は世界に約 22 億人いると言われていています。キリスト教は世界で最も多くの人に信じられている宗教です。世界人口が約 72 億人ですから、世界の約 3 人に 1 人がイエス様を信じるクリスチャンであると言えます。

これだけ 2,000 年の時を越えてもなお、世界中の多くの人がキリスト教を信じ、「イエス様の復活」を信じているという事実を考えるなら、「イエス様の復活」は嘘でも「作り話」でもないと言えるのではないのでしょうか。

3. イエス・キリストの十字架と復活と私たちの関係

キリスト教の信仰というのは、いったい何を信じるものなのでしょうか。キリスト教の信仰というのは、イエス様は「神」であり、「私たちの救い主」であると信じるものです。イエス様は、十字架に架かれることによって「私たちの救い主」であることを示され、三日目に復活されることによって御自身が「神」であられることを示されたのです。その意味で、キリスト教の信仰は、イエス様の十字架と復活が中心であると言えます。

では、イエス様が「神」であり、「私たちの救い主」であると信じることによって、またイエス様の十字架と復活を信じることによって、私たちの人生にどんな影響があるのでしょうか。私たちの人生は、何か変わるのでしょうか。

先ほど読んだ聖書によれば、イエス様を信じた人には、二つのことが起こると言われています。

一つは、イエス様とともに十字架に付けられ、「**罪に対して死ぬ**」ということです。聖書で言う「罪」というのは、神の御心に背くことです。聖書によれば、神の御心とは、「神を愛し、人を愛すること」です。ですから「罪」というのは、「神を愛さず、人を愛さないこと」です。では「神を愛さず、人を愛さない」人は、いったい誰を愛しているのでしょうか。それは「自分自身」です。「自分だけを愛して、自分のことだけを考えて生きること」、それが聖書で言う「罪」というものです。それはつまり自己中心です。人間社会のあらゆる犯罪、またあらゆる悲しみと苦しみの原因は、もとを辿れば、私たち人間の自己中心性にある、私たち人間が神様を愛さず、人を愛さないことにある、というのが聖書の教えです。

イエス様は、そういう私たちの「罪」のために十字架に架かれたのです。私たちの罪に対する裁きと罰をイエス様が身代わりに受けるため、そして私たちが「**罪に対して死ぬ**」ためです。それは、私たちの自己中心的な生き方を止めさせるためです。イエス様を信じる人は、自己中心的な生き方に終わりを告げるのです。

もう一つ、イエス様を信じた人に起こることは、イエス様とともに復活し、「**神に対して生きる**」ということです。「神に対して生きる」ということは「神の御心を求めて生きる」ということです。それはつまり「愛に生きる」ということであり、「神を愛して、人を愛して生きる」ということです。それを聖書は「**新しい歩み**」と呼んでいます。

このようにイエス様を信じて心に迎え入れる人は、イエス様と一つに結ばれて、自分自身のうちに十字架と復活を経験するのです。それはつまり、「自己中心に終わりを告げ、愛に生きるようになる」ということです。

私たちは、自分の力で、自分の自己中心性を拭うことはできません。また自分の力で、神様を愛し、人を愛することはできません。私たちは、イエス様を復活させた神様の力によって変えられるのです。神様は、死んだ者をよみがえらせる方です。死からのちを与える方です。神様は、イエス様を復活させたその力で、愛において死んでいる私たちに、新しいいのちを与え、私たちを「愛に生きる者」へとよみがえらせてくださるのです。

キリスト教の信仰というのは、単なる教えではありません。自分の努力によって、自己中心に終わりを告げ、愛に生きなさいというものではありません。そうではなくて、イエス様の復活を信じて、イエス様を復活させた神様の力を信じて、その力が自分自身のうち

にも働くことを信じて、自己中心に終わりを告げ、愛に生かされなさい、新しい歩みをしなさいというものです。

もしイエス様の復活が真実なら、私たちもまた神様の力によって、新しい歩みができるはずです。新しい人生を歩めるはずです。人生を何度でもやり直せるはずです。イエス様の復活は、私たちにとって希望です。イエス様を復活させた神様の力を信じるなら、私たちはどんな暗闇の中でも、どんな絶望の中でも、希望を見出すことができるのです。

おわりに

イギリスのメソジスト派の伝道者ロドニー・スミスが、アバデーンという町で伝道していた時のことです。ある晩、集会が終わってからの帰り道、誰か彼の上着のうしろをしきりに引っ張る者がいました。彼が立ち止まって振り返ると、そこには貧しい身なりをしたスコットランド人の小さな少女が、手に何か持って立っていました。

「どうしたの、お嬢ちゃん。私に何か用ですか」とロドニー・スミスが優しく尋ねると、少女は「先生、私、このお菓子を先生にあげたいの」と言いました。「どうして」と聞くと、少女は「先生、私の家に新しいお父さんができたからです」と言いました。「新しいお父さんですって」「そうなんです。今までのお父さんはお酒ばかり飲んで、乱暴で、怠け者で、自分勝手な人でした。だけど先週の土曜日からは、全く違うんです。うちのお父さんは、先生の集会に出てイエス様を信じてから、まるっきり違った人になりました。私たち、とっても幸せになったんです」。

聖書には、このような言葉があります。「**だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました**」(IIコリント 5:17)。イエスを信じる人は、イエス様を復活させた神様の力によって「新しい歩み」を始めることができます。

イエス様の十字架と復活は、弟子たちの人生を変えました。同じようにイエス様の十字架と復活は、私たちの人生をも新しく変えてくださるのです。